

戦略的創造研究推進事業の改革に向けた主な論点と方向性（案）

●論点：戦略事業の意義、特徴、強み

戦略事業は、我が国の基礎研究を振興する施策としてこれまで大きな役割を果たしてきたが、戦略事業を取り巻く昨今の状況を踏まえ、今日的にどのような意義を有するのか、今後どのような方向を目指すべきか

方向性⇒

- ・ 科学技術イノベーション創出の要となる基礎研究は、社会的・経済的価値の創造に結びつくには高い不確実性が伴い、市場原理に委ねるのみでは十分に取組まれないことから、その推進は政府の責務である。
- ・ その際、「知」の創出の多くの部分を担う学術研究が基盤として重要であるとともに、国が目標を示すことなどにより、生み出された多くの「知」を社会的・経済的価値の創造に向けて大きく発展させ、また、用途を考慮することの中から新たな「知」の創出にも貢献する戦略的な基礎研究を推進することが重要である。
- ・ 戦略事業が我が国の基礎研究の振興施策として大きな役割を果たしてきたことは改めて指摘するまでもない。近年の我が国の研究環境を取り巻く状況に照らしてみれば、本事業の重要性は一層増大しているといえる。
- ・ 出る杭を打たず、異論、異端を排除せず、取り込み、更に伸ばしていくといったような視点から、創造性をもってこれまでの科学の延長線上にないものに果敢に挑戦する研究者を積極的に支援していくことが求められる。
- ・ 「出口を見据えた基礎研究」の出口の捉え方として、現時点で必要と認識されている技術につなげるという狭い見方ではなく、将来的な社会像、社会システムの変動も見越しつつ、それにどう貢献できるのかを合わせて考えていくという長期的な視点が必要である。
- ・ 近年の研究環境の変化、研究の進展スピードの劇的な迅速化を踏まえれば、戦略事業の特徴・強みを生かしつつ、事業全体を通じてより機動性・柔軟性をもって運営を行うことが必要である。

※戦略事業の主な特徴・強み

“トップダウンの目標設定による戦略的な基礎研究”

国が定める戦略目標の下、不確実性が高く市場原理に委ねるのみでは十分に取組まれない科学技術イノベーション創出の要となる基礎研究を強力に牽引する

“卓越した目利き”

研究総括の優れた卓越した目利き力によって、単なる実績主義・合意重視では採択されない可能性もある挑戦的な研究課題を採択する

“研究者間のネットワーク形成・異分野融合”

研究総括やアドバイザーによるきめ細やかなマネジメントの下、異なる分野の研究者との交流機会の提供、ネットワークの形成、異分野融合の促進を図る

“機動性・柔軟性”

研究総括は大きな裁量を持ち、柔軟に研究領域内の予算配分や計画の調整・変更を行う。最新の研究動向や政策動向等を踏まえて、機動的に研究計画の変更・見直しを実施する

●論点：新興・融合領域の開拓の強化

新興・融合領域の開拓をより効果的に進めるため、どのように改善すべきか。創設時と比して近年の戦略目標は対象が狭くなっているものがあるとの指摘があるが、戦略目標の適切な対象の範囲はどうあるべきか

方向性⇒

- ・ 戦略目標の大きくくり化は、予期しなかった独創的・挑戦的なアイデアを拾えるようにするという意味で非常に意義がある。
- ・ 近年の研究活動の進展スピードに的確に対応していくためにも戦略目標の大きくくり化という方向は合致している。
- ・ 諸外国の例に照らしても、中長期的な視点に立って、我が国が比較優位にある分野やオリジナリティの高い分野を発掘し、伸ばすといった視点が重要である。
- ・ 戦略目標は、国としての戦略性と研究者の創造性が生かせるようなバランスが重要である。

●論点：戦略目標の策定プロセス

戦略目標の策定にあたっては論文分析データや研究者へのアンケート結果等を基に戦略目標を作成しているが、効果的な戦略目標の設定は如何にあるべきか

方向性⇒

- ・ 近年の研究活動の進展スピードに的確に対応していくためには、研究動向の把握の時間軸、戦略目標の設定の方法論、粒度や、最前線での機動性・裁量性を重視した運営が必要である。その際、過大なプロセス・手続き等により、好機を逸することのないよう、必要最小限なものとなるよう留意する。
- ・ 近年の研究活動の迅速化を踏まえれば、戦略目標の設定に関して助言を行う

有識者を置くことが効果的である。

- ・ 社会的・経済的価値の創出と新しい学理の構築の両面が本事業の意義であることに留意して、短期的視点から社会的インパクトに重きを置き過ぎるといったことがないよう、両面のバランスに配慮した運営が求められる。
- ・ 戦略目標の策定プロセスにおいて、他のF Aとの情報共有の強化、意見聴取の機会の設定等を図る。

●論点：若手研究者の支援方策

さきがけは研究総括等によるメンタリングや合宿形式の領域会議における指導、討議等を通じて、優れた若手研究者の育成を支援するものとして機能してきたが、どのような改善点があるか、若手研究者の育成の観点から戦略事業においてどのような点を改善すべきか

方向性⇒

- ・ さきがけは人材育成という観点で諸外国に類を見ない優れた制度である。さきがけの大きな特徴・強みとしてマルチメンタリングが挙げられる。多様な分野の領域アドバイザーと若手研究者が集うことで、学会活動では得られない人脈が構築され、それが将来の研究の発展につながる。研究領域の設計、運営においては、さきがけのこうした特徴・強みが発揮されるよう、配慮が求められる。
- ・ さきがけは研究者として独立する一歩手前の支援策として有効に機能している一方、P Iとして独立した後の支援が不足している。また、さきがけで頭角を現し、真に優れた成果を出した課題を継続的に支援する大きな規模の制度が求められる。
- ・ また、ERATO、CREST においては、プロジェクトに参画した若手研究者がその後優れたP I となって第一線で活躍している例も多い。これはプロジェクトに取り組む中で、優れた研究代表者の下に若手研究者が集まり、互いに切磋琢磨しつつ先端研究に取り組んだ実績と経験がいきるといふ副次的な効果といえる。

●論点：戦略事業における継続性のあり方

継続的な視点をもって戦略事業を運営することがよいのではないかとの指摘があるが、戦略事業における継続性はどのように考えるべきか

方向性⇒

- ・ 戦略目標の策定の際に、終期を迎える戦略目標（研究領域）の評価や関連す

る動向調査に関する情報を考慮する。

- 例えば、元素戦略は日本発の研究領域として高い成果を創出し、一定期間の支援の後、国の他の制度で支援され拠点化されていった。優れた成果を生み出した研究領域や研究課題については、良いものが埋もれてしまうことがないよう、他の制度へのつなぎや施策間での情報共有、連携の強化などのフォローアップの強化が求められる。
- さきがけは研究者として独立する一步手前の支援策として有効に機能している一方、P Iとして独立した後の支援が不足している。また、さきがけで頭角を現し、真に優れた成果を出したものに対する継続的な支援が求められる。

●論点：その他改善点

上記の他、どのような改善点があるか。事業運営上の柔軟性、機動性は十分に確保できているか。提出書類等をより簡素にすべきとの意見があるがどうか

方向性⇒

- さきがけやCRESTの研究領域の運営は、研究総括・領域アドバイザーの資質・考えによるところが大きいことから、グッドプラクティスの蓄積を図るなど、よりよい運営につなげるための工夫を重ねていくことが必要である。
- 提出書類の簡素化については、コンプライアンスや説明責任の観点で必要なものを見極めつつ、可能なものから順次改善を図っていく。

●論点：今後の方向性

上記の諸点を踏まえ、今後如何にあるべきか。

方向性⇒

- 世界的に「知」を経済的・社会的価値の創造に結びつけるための取組が強化され、一層激しさを増す国際環境において、戦略事業の特徴・強みを最大限に引き出しつつ、事業を一層充実・強化していくことが求められる。